

## 製品情報シート

### 1. 商品名及び会社情報

製品名 クッション封筒ポップエコ 全製品  
会社名 株式会社 ユニオンキャップ  
住 所 〒491-0834 愛知県一宮市島崎1-2-3  
電話番号/FAX 0586-76-8337/0586-76-7591  
担当部署 名古屋工場 生産本部 品質保証担当  
担当者 工場長 田中 角栄  
緊急連絡先 〒491-0834 愛知県一宮市島崎1-2-3  
緊急電話番号/FAX 0586-76-8337/0586-76-7591

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

##### 物理化学的危険性

可燃性固体	分類できない
自然発火性固体	分類できない
自己発熱性固体	分類できない
金属腐食物質	分類できない

##### 健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類対象外
急性毒性(吸入:粉塵・ミスト)	区分外
皮膚腐食性/刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	区分外
呼吸器感受性	分類できない
皮膚感受性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分外
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分外
吸引性呼吸器有害性	分類できない
水性環境有害性(急性)	分類できない
水性環境有害性(慢性)	分類できない

##### GHSラベル要素

GHS分類に該当しない他の危険有害性	該当なし
重要な徴候	特になし
想定される非常事態の概要	特になし
国/地域情報	「15.適用法令」を参照

#### 人の健康に対する有害な影響

##### ポリエチレン/ポリプロピレン

高分子化学物で生理的に不活性であり、人体への特別な急性作用はない。高温熔融物から発生するガスは目、呼吸器にやや刺激性がある。

##### 環境への影響

環境において長期間分解しないため、環境汚染になる。小さなフィルム状になった物については魚類、及び一部の両生類等が誤食する可能性あり。

## 危険性

可燃物である。

消防法「指定可燃物」(合成樹脂類)

## 3. 組成および成分情報

製品区分	紙とポリエチレンの貼り合わせ製品
成分及び比率	ポリエチレン30%～60% CASNo.9002-88-4 紙70%～40% 合成ゴム0.01%～0.05% ポリプロピレン0.01%～0.05% CASNo.9003-07-0

## 4. 緊急処置

ポリエチレン/ポリプロピレンが目に入った場合

熔融物が目に入った場合は、目をこすらずに直ちに清浄水で異物を十分に洗い流す事。

洗浄後、炎症が発生するようであれば専門医の手当てを受けること。

ポリエチレン/ポリプロピレンの熔融物が皮膚についた場合

高温熔融状態では火傷をおこしますので、接触しないように注意すること、もし誤って接触した場合は患部を多量の水で完全に冷やし、専門医の手当てを受ける。

ポリエチレン/ポリプロピレンのガスを吸入した場合

高温の熔融物から発生するガスをひどく吸入した場合は、直ちにガスの発生場所から退避して新鮮な空気の中で安静にする、気分が優れないようであれば直ちに専門医の手当てを受ける。

ポリエチレン/ポリプロピレンを飲み込んだ場合

大量の清浄水を飲ませてから、指を差し込んで吐かせる、掃除機等で吸い取る等の応急処置をしてその後専門医の判断を仰ぐ。

## 5. 火災時の処置

消防法火災発生場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。

燃烧した場合は、熱分解、不完全燃焼により黒煙、一酸化炭素等が発生するので消火作業の際は状況に応じて、適切な保護具を着用する。

消火剤多量の水、防火砂の他、粉末、泡、炭酸ガス等各種消火器が使用できる。

## 6. 飛散、漏出時

- (1) 飛散した場合、製品の外側は紙ですが、内側はポリエチレンで出来ており、自然界で分解するのに長時間掛かります。必ず回収して適切な処置にて廃棄ください。
- (2) 高温熔融状態にて漏出した場合は決して手で処理しないでください。火傷を起こします。必ず水等で完全に冷却し、固形化してから処置ください。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

- (1) クッション封筒は紙とポリエチレン性緩衝材(エアークッション)との二層品です。火気は厳禁とします
- (2) クッション封筒はポリエチレンの独立気泡の密閉空気のクッションを利用しています。潰れ、突き刺し、緩衝傷等発生がない取り扱いをしてください。
- (3) 封筒のクッションに著しい負荷のかかる物品を挿入して機能を逸脱した使用を禁止します。

保管

- (1) 火気厳禁とする。(火気、熱源より遠ざけて保管ください。)
- (2) 直射日光のあたらない、高温高湿度にならない室内に保管する。
- (3) 当製品の上に重量物を載せて保管すると当製品が変形しますので、禁止します。

## 8. 暴露防止と保護処置

日本産業衛生学会では、この物質の許容濃度を設定していない。

その為、取り扱いや、保管に特別な暴露防止の設備、及び保護処置(保護具)は必要としない。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 外観

外観は完全に紙で覆われています。内側に独立気泡を有するポリエチレンのシートが内張されており、クッション性に富んだ封筒。

### ポリエチレン

融点65°C～120°C

溶解度水に溶解しない

引火点200°C以上

### ポリプロピレン

融点～165°C

溶解度水に溶解しない

引火点300°C以上

### 接着剤(合成ゴム)

色合 乳白色

軟化点100°C

比重 0.93

熔融粘度160°C6,800cps

せん断接着強さ20°C 4.4/Σ

## 10. 安定性及び反応性

### 安全性

一般的な貯蔵、通常取り扱いについて安定で、反応性はない。

ただし紙製品部分は高温多湿に対し耐久性及び腐食性にやや影響を受ける。

### 反応性

可燃性である。消防法に基づく指定可燃物(合成樹脂類に分類される)

## 11. 情報

### 局所効果

皮膚刺激性 物理的刺激

眼刺激性 物理的刺激

臭気刺激 弱

### 急性毒性

生理学的にポリエチレンは不活性であり、人体への特別な急性作用はない。

### 発ガン性

IARC(国際がん研究機関)の発ガン性区分では、ポリエチレンをグループ3に(人に対する発ガン性は評価できない)分類されている。

## 12. 環境影響情報

(1) 環境において、長期間分解しない。

(2) ポリエチレン/ポリプロピレンの水溶性は無視できるので、水生物への化学的毒性は弱いと思われる。

(3) ポリエチレン/ポリプロピレンの小片は、魚類の一部、及び両生類の一部に誤食の報告があり、いかなる海洋及び水域にも投棄してならない。

## 13. 廃棄上の注意

### 少量の場合

ポリエチレン/ポリプロピレンは廃棄市町村の指定する方法で廃棄する。

### 大量の場合

(1) 焼却する場合は、焼却設備を用いて「大気汚染防止法」に適合した処理設備にて行う。

(2) 埋め立てる場合は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従い破碎して産業廃棄物処理場に埋め立てる。

(3) サーマルリサイクルは、許可証を有する廃棄業者に委託する。

#### 14. 輸送上の注意

- (1) 包装は崩れない事を確かめ落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。特に潰れやすい商品であるため混載する場合、重量物を上に載せる事を禁止する。
- (2) 異物、水の混入は絶対に避ける。又荷物が軽い場合強風等で荷崩れ散逸しない様シートを掛けて輸送する事。

#### 15. 適用法

消防法

指定可燃物 合成樹脂類(指定数量3,000Kg)

#### 16. その他の情報

出典 産業衛生学会誌42巻

化学防災指針集成

GHS対応ラベルおよびMSDSの作成マニュアル

日本産業衛生学会(2000)

丸善

厚生労働省医薬食品局審査管理課化学物質安全対策室

#### 注意:

化学物質の排出量を把握する為、PRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)が公布されましたが、この法律では、紙製品は対象外となっております。

従って弊社では、クッション封筒に関する「MSDS(安全データシート)」の提出を、法的には求められていないと考えておりますので、その代わりに「製品情報シート」という様式にて、御提出させていただきます。

記載内容は現時点で入手した資料、情報、データに基づいて作成してありますが、記載のデータ及び評価は必ずしも十分ではありません。よって取り扱いには十分注意してご判断くださる様お願いいたします。

尚、諸処の注意事項を記載いたしましたがこれは一般的な取り扱いを想定いたしております。

特別な取り扱いをする場合はその状況に合わせ、用途、用法に適した安全対策を実施の上お取り扱いいただきますようお願い申し上げます。

